



# ディレクトリのナビゲーションおよびファイルの管理方法

この章では、WAFS ソフトウェアを稼働する File Engine または Wide Area Application Engine (WAE) 上で、ディレクトリを変更し、ファイルを管理する方法について説明します。このようなスキルは、デバッグ機能を使用してソフトウェア アップグレードを実行する場合や、ログ ファイルを表示する場合に重要となります。

この章には、次の項があります。

- [WAFS ディレクトリのナビゲーション、2-2 ページ](#)
- [WAFS ファイルの管理、2-4 ページ](#)



(注)

Cisco WAFS 3.0 ソフトウェアは、FE-511 File Engine と、WAE-611 および WAE-7326 Wide Area Application Engine で動作します。簡潔にするため、説明文の中や使用例のコマンド プロンプトの部分では、単に WAE と記述していますが、特に注釈がないかぎり、3 つのプラットフォームすべてに当てはまります。

この章で取り上げる CLI コマンドの完全な構文と使用方法については、『*Cisco WAFS 3.0 Command Reference*』を参照してください。

## WAFS ディレクトリのナビゲーション

WAFS CLI には、ディレクトリを変更し、ディレクトリの内容を表示するためのコマンドがいくつかあります。これらのコマンドは、特権 EXEC モードで入力します。表 2-1 は、これらのコマンドとそれぞれの説明を示しています。

表 2-1 WAFS ナビゲーション コマンド

コマンド	説明
<code>cd [directory-name]</code>	ディレクトリの変更 WAFS ツリー内で、現在のディレクトリから指定されたディレクトリへ変更します。ディレクトリが指定されず <code>cd</code> コマンドのみの場合は、1 つ上のディレクトリへ移動します。
<code>deltree directory-name</code>	ディレクトリ ツリーの削除 指定されたディレクトリ、およびそのすべてのサブディレクトリとファイルを、警告を表示せずに削除します。
<code>dir [directory-name]</code>	ディレクトリの表示 現在のディレクトリパス内の指定したディレクトリ（指定されない場合は、すべてのディレクトリ）について、サイズ、最終変更日、および名前を一覧表示します。このコマンドの出力は、 <code>ls</code> コマンドの出力と同じです。
<code>ls [directory-name]</code>	ディレクトリ名の表示 現在のディレクトリパス内のディレクトリの名前を一覧表示します。
<code>lls [directory-name]</code>	ディレクトリの表示 現在のディレクトリパス内の指定したディレクトリ（指定されない場合は、すべてのディレクトリ）について、サイズ、最終変更日、および名前を一覧表示します。このコマンドの出力は、 <code>dir</code> コマンドの出力と同じです。
<code>mkdir directory-name</code>	ディレクトリの作成 現在のディレクトリパスに、指定した名前のディレクトリを作成します。
<code>pwd</code>	現在の作業ディレクトリ このコマンドを入力したところからの完全なパスを表示します。
<code>rmdir directory-name</code>	ディレクトリの削除 現在のディレクトリパスから指定したディレクトリを削除します。最初に、ディレクトリ内のすべてのファイルを削除しないと、そのディレクトリは削除できません。

次に、`dir` コマンドの出力例を示します。

```
WAE# dir
      size          time of last change          name
-----
      4096 Sun Jan 30 09:17:24 2005 <DIR> actona
      4096 Sun Jan 30 09:17:34 2005 <DIR> core_dir
      4096 Sun Jan 30 09:16:43 2005 <DIR> crash
      4096 Sun Mar 20 00:38:00 2005 <DIR> errorlog
      4096 Sun Mar 20 00:38:00 2005 <DIR> logs
     16384 Sun Jan 30 09:16:15 2005 <DIR> lost+found
      4096 Tue Feb 8 03:25:59 2005 <DIR> sa
      4096 Sun Mar 20 00:38:21 2005 <DIR> service_logs
      4096 Sun Jan 30 09:17:24 2005 <DIR> spool
     585690 Fri Mar 25 20:39:13 2005 syslog.txt
      4096 Sun Jan 30 09:17:32 2005 <DIR> var
```

次に、`pwd` コマンドの出力例を示します。

```
WAE# pwd
/local1
```

## ディレクトリの説明

WAFS 3.x ソフトウェアのトップレベルのいくつかのディレクトリには、ソフトウェア自体が内部的に使用する情報が含まれます。これらのディレクトリは、管理者にとって特に役立つものではありません。このようなディレクトリには、*core\_dir*、*crash*、*errorlog*、*lost+found*、*sa*、*service\_logs*、*spool*、および *var* があります。

表 2-2 は、管理者がトラブルシューティングやモニタリングを実行するために役立つ情報を含むディレクトリとその説明が示されています。

表 2-2 WAFS ディレクトリの説明

ディレクトリ/ ファイル名	内容
<i>actona</i>	このディレクトリには、File Engine または WAE にインストールされている現在のソフトウェア イメージと、過去にインストールされた以前のイメージが含まれます。
<i>logs</i>	このディレクトリには、トラブルシューティングに使用されるアプリケーション固有のログが含まれています。 <i>actona</i> サブディレクトリには、一般に使用される <i>Manager.log</i> 、 <i>Utilities.log</i> 、 <i>Watchdog.log</i> といったログ ファイルが含まれます。これらのログ ファイルの使用の詳細については、第 13 章「WAE のトラブルシューティング」を参照してください。
<i>syslog.txt</i>	このファイルは、ログ メッセージの中央リポジトリです。ときどき、WAFS またはそのコンポーネントの動作に関する重要なメッセージが、このファイルにログされます。この重要なメッセージには、通常、管理者が対処する必要のないルーチン メッセージが混在しています。お客様は、問題の発生時に、このファイル、 <b>show tech-support EXEC</b> コマンドの出力、またはその他の出力を Cisco TAC の担当者に提示するように要請されることがあります。

## WAFS ファイルの管理

WAFS CLI には、ファイルを管理し、その内容を表示するためのコマンドがいくつかあります。これらのコマンドは、特権 EXEC モードで入力します。表 2-3 は、これらのコマンドとそれぞれの説明を示しています。

表 2-3 WAFS ファイル管理コマンド

コマンド	説明
<b>copy</b> {source   image}	<p>コピー 選択したソース ファイル、イメージ、またはコンフィギュレーション情報をコピーします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>cdrom CDROM からファイルをコピーします。</li> <li>compactflash コンパクトフラッシュカードからファイルをコピーします。</li> <li>disk ディスクからコンフィギュレーションまたはファイルをコピーします。</li> <li>ftp FTP サーバからファイルをコピーします。</li> <li>ftp HTTP サーバからファイルをコピーします。</li> <li>running-config 現在のシステム コンフィギュレーションからコピーします。</li> <li>startup-config スタートアップ コンフィギュレーションからコピーします。</li> <li>system-status デバッグ時の参照用としてシステム ステータスをコピーします。</li> <li>tech-support テクニカル サポート用にシステム情報をコピーします。</li> <li>tftp TFTP サーバからイメージをコピーします。</li> </ul>
<b>cpfile</b> source-filename destination-filename	ファイルのコピー ソース ファイルのコピーを作成し、現在のディレクトリに配置します。
<b>delfile</b> filename	ファイルの削除 現在のディレクトリ パスから指定したファイルを削除します。
<b>less</b> filename	LESS を使用したファイルの表示 LESS プログラムを使用して、指定したファイルを画面に表示します。ファイル名は、大文字と小文字を区別します。q を入力すると、ファイルの表示が中止され、ディレクトリに戻ります。
<b>mkfile</b> filename	ファイルの作成 現在のディレクトリ パスに、指定した名前のファイルを作成します。
<b>rename</b> old-filename new-filename	ファイル名の変更 指定したファイルの名前を新しいファイル名に変更します。
<b>type</b> filename	ファイルの表示 指定したファイルの内容を画面に表示します。
<b>type-tail</b> filename [line   follow   {begin LINE   exclude LINE   include LINE}]	ファイルの終わりの表示 指定したファイルの最後の数行を表示します。ファイルの最後の数行に続けて新しい行を追加したり、ファイル内の特定の行から開始したりするために使用することもできます。また、ファイルに特定の行を含めたり、ファイルから特定の行を除外したりするためにも使用できます。
<b>find-pattern</b> pattern	ファイル内の検索 特定のパターンについてファイルを検索します。

次の例は、`copy` コマンドを使用して、現在の実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションに保存する方法を示しています。

```
WAE# copy running-config startup-config
```

次の例は、`rmfile` コマンドを使用して、ディレクトリ `test` からファイル `sample` を削除する方法を示しています。

```
WAE# cd test
WAE# ls
sample
sample2
WAE# rmfile sample
WAE# ls
sample2
```

次の例は、`Watchdog.log` ファイルの最後の数行を表示する方法を示しています。

```
WAE# cd logs
WAE# cd actona
WAE# ls
Watchdog.log
WAE# type-tail Watchdog.log
[2005-01-30 15:13:44,769][FATAL] - System got fatal error going to restart.
[2005-03-19 18:43:08,611][FATAL] - System got fatal error going to restart.
[2005-03-19 19:05:11,216][FATAL] - System got fatal error going to restart.
WAE#
```

